

科目名	言語学特講	担当者	オオカワ 大川 ヒデアキ 英明	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	--------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	言語学における基本的な領域を概観することにより、各領域における研究内容と研究範囲を理解することを目的とする。具体的には音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、認知言語学、談話分析、コーパス言語学、等の諸領域、諸理論に関する基本概念の習得を目的とし、記述言語学や応用言語学の分野の研究に必要な基礎を築く。		
到達目標	教材や実際の論文を読むことにより、言語学における分析方法や議論の方法を学ぶことを目指す。また、研究上の興味や第二言語習得にある受講者にも研究の基礎となるようにいくつかの主要な理論を中心に幅広く知識を養っていただきたい。		
学修方法	まずは教材に書かれている情報を吸収していただくが、レポートは教材のまとめから始め、最後は特定の言語理論の枠組みによる論文に対する評価をすることになる。徐々にレベルを上げていくことになるが、特に前期のうちに基礎を固め、興味のある言語学の論文を見始めていただきたい。また、後期には実際の論文を課題として読むことにより、言語学の議論の仕方や特定の言語理論の実際に触れることになる。		
スケジュール	<p>【前期】 レポート課題1 締切： 6月15日 レポート課題2 締切： 8月31日</p> <p>【後期】 レポート課題1 締切： 11月15日 レポート課題2 締切： 学事暦記載の課題提出締切日</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	1) 教材の理解度 2) レポートの構成 3) 論理的展開 4) 分析力 5) 学術論文としての体裁が整っているか
	平常評価	20%	1) 課題への取り組み 2) 学習姿勢 3) 質疑応答の内容
履修者への要望	第二言語習得を専門にする履修者にとっても、言語学の知識は必要であり、また研究の幅を広げることにつながるため、本講座を通して言語学一般の知識を獲得して欲しい。また、日常生活で遭遇する様々な言語現象に興味を持って履修していただきたい。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 中島平三編 教材名： 『シリーズ朝倉<言語の可能性> 言語の領域(I)』（朝倉書店, 2009年） ISBN：978-4254515619 3,800円+税
	この教材は主にことばの形式の側面を扱っている。音声学、音韻論から始まり、形態論、統語論の形式的な側面を紹介している。教材の後半では生成文法理論、認知言語学、語彙意味論、機能構文論、等、形式と意味にまたがる問題を扱う理論を紹介している。
参考図書	大津由紀雄編著『はじめて学ぶ言語学 ことばの世界をさぐる 17章』（ミネルヴァ書房, 2009） ISBN：978-4623055807 2,800円+税 中島平三『言語学への招待』（大修館書店, 1994） ISBN：978-4469211849 2,000円+税
履修上のポイント	言語学の中でも形式的な側面を中心に学ぶことになるが、教材で基本的、中心的な知識や理論を押さえたあと、実際の論文に接することになるので、しっかりと教材の理解を図ってほしい。
レポート課題 1	第1章から第5章を各章ごとにまとめなさい。 留意点： 特に字数は指定しないが、できるだけ具体例を入れながら自分の言葉で各章のまとめをする。
レポート課題 2	教材で扱っている言語学の分野の論文を選び、要約しなさい。（3,000～4,000字） 留意点： 論文は1編でも可。2編以上を扱う場合はその内容的に関連があるものとする。論文は日本語か英語で書かれているものとする。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 中島平三監修、今井邦彦編 教材名： 『シリーズ朝倉<言語の可能性> 言語の領域(II)』（朝倉書店, 2009年） ISBN：978-4254515626 3,800円+税
	この教材では言語における意味に係わる側面を扱っている。具体的には意味論、語用論、談話分析、コーパス言語学等の領域における研究成果をまとめ、紹介している。本格的研究が相対的に新しく始まった領域や独立した分野として多くの人が最近になって初めて認めるようになった領域が盛り込まれている。
参考図書	ジェニー・トマス『語用論入門—話し手と聞き手の相互交渉が生み出す意味』（研究社出版） ISBN：978-4327401184 2,800円+税 杉山洋介『認知言語学入門』（研究社, 2010） ISBN：978-4327378196 1,700円+税 岸本秀樹『ベーシック生成文法』（ひつじ書房, 2009） ISBN：978-4894764262 1,600円+税
履修上のポイント	教材では意味に関わる現象を中心に理論的な枠組みを見ていくことになる。最初の教材も含め、興味のある理論に基づく論文を読み、言語学における分析の仕方や議論の仕方を身につけて欲しい。
レポート課題 1	語用論か認知言語学か生成文法、または教材で扱っている他の理論的な枠組みに基づく論文を読み、要約しなさい。（3,000～4,000字） 留意点： 論文は日本語か英語で書かれているものとする。
レポート課題 2	語用論か認知言語学か生成文法、または教材で扱っている他の理論的な枠組みに基づく論文を選び、要約すると同時に、自らの意見・分析を加えなさい。（3,000～4,000字） 留意点： レポート課題 1とは異なる理論のものとする。また、論文は日本語か英語で書かれているものとする。

科目名	言語学特講	担当者	ホサカ 保坂 ミチオ 道雄	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座では、英語と日本語の言語事実を比較・対照しながら、両言語の奥に潜む普遍的原理を、生成文法と機能統語論の理論に基づき、探求するものである。特に、生成文法と機能的統語論が何をめし、現在の言語研究に如何なる貢献を為してきたかを、日英語の言語データを通じて実証的に検証し、言語研究の奥深さを学んでいきたい。</p>		
到達目標	<p>本講座の到達目標は、受講生が、①日英語の語法・文法・意味についての基礎知識、②生成文法の基礎知識、③英語と日本語を比較・対照した実証的研究、等を通じて、言語研究の基礎的方法論を身につけることである。</p>		
学修方法	<p>まず、第一にテキストを精読し、その内容を十分に吟味し、理解した事柄を、自らの言葉で表現できることが大切である。また、その際、単なる内容のまとめではなく、その理解を深めるために、言語事実をよく検証し、テキスト外の言語現象にも目を配り、理解した内容を応用できる力をつけてもらいたい。</p>		
スケジュール	<p>各テキストの内容に従って、勉強を進め、レポート課題に済み次第、速やかに提出し、添削指導を受けることとする。なお、各レポート課題の最終提出前に、2回以上の指導を受ける必要がある。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	最終提出レポートの評価
	平常評価	40%	事前提出レポートに関する評価
履修者への要望	<p>できるだけ早めにレポートの草稿を提出できるように心掛けて下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 岸本秀樹 教材名： 『ベーシック生成文法』（ひつじ書房，2009年）ISBN:978-4-89-476426-2 1,600円+税</p> <p>「人間は生まれた時から言語を獲得するシステムを内在している」という仮説が20世紀半ばに提唱されて以来，言語の研究は本格的な科学へと発展してきた。本教材では，日英語において日常的に観察される言語データを用いて，生成文法がどのような見方で言語をとらえるかが詳しく解説されており，本教材を通して，ことばを科学的に分析する方法について学んで頂きたい。</p>
参考図書	<p>町田健『生成文法がわかる本』（研究社出版，2000年）ISBN:978-4-32-737680-2 1,900円+税 中村捷・金子義明・菊池朗『生成文法の新展開』（研究社，2001年）ISBN:978-4-32-742155-7 3,000円+税 福井直樹『自然科学としての言語学－生成文法とは何か』（大修館書店，2001年） ISBN:978-4-46-921265-5 2,300円+税 今井邦彦『チョムスキー小事典』（大修館書店，1986年）ISBN:978-4-46-904244-3 2,600円+税 中島平三・池内正幸『明日に架ける生成文法』（開拓社，2005年） ISBN:978-4-75-891809-1 3,000円+税</p>
履修上のポイント	<p>前期の目標は，現代言語学の中核理論である生成文法の基本を学び，以下の点を中心に，英語と日本語の統語構造について考察する。</p> <p>①文の構造 ②言語獲得 ③Xバー理論 ④意味役割 ⑤主語</p>
レポート課題 1	<p>1. 第1章から第6章を読み，言語獲得と普遍文法の関係について，説明しなさい。 2. 第1章から第6章を読み，日英語の違いについて，Xバー理論に基づいて説明しなさい。</p>
レポート課題 2	<p>1. 第7章を読み，日英語のYES・NO疑問文を派生する方法について，Xバー理論に基づいて説明しなさい。 2. 第8章・第9章を読み，日英語の受動文を派生する方法について，項構造に配慮して説明しなさい。 3. 第12章・第13章を読み，日英語の主語について，項構造に配慮して説明しなさい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 高見健一 教材名： 『機能的統語論』（くろしお出版，1997年）ISBN:978-4-87-424151-6 2,000円+税</p> <p>本教材では，基本教材1で学んだ文の構造に焦点を当てて分析する形式主義的なアプローチと比較しながら，文の意味や機能に焦点を当てて分析する機能主義的なアプローチを学んでいく。具体的には，英語と日本語を比較対照しながら，それぞれの言語の構文や現象が適格となったり，不適格となったりする背後にある機能上の制約や原則の働きを考察し，その理由を探る。</p>
参考図書	<p>久野すすむ『談話の文法』（大修館書店，1978年）ISBN:978-4-46-922021-6 2,500円+税 高見健一『機能的構文論による日英語比較』（くろしお出版，1995年）ISBN:978-4-87-424107-3 4,200円+税 高見健一『日英語の機能的構文分析』（鳳書房，2001年）ISBN:978-4-90-030481-9 4,800円+税 中右実ほか『談話と情報構造』（研究社出版，1998年）ISBN:978-4-32-726002-6 2,400円+税 福地肇『談話の構造』（大修館書店，1985年）ISBN:978-4-469-14220-4 2,300円+税 西光義弘『日英語対照による英語学概論（増補版）』（くろしお出版，1999年） ISBN:978-4-87-424169-1 2,500円+税</p>
履修上のポイント	<p>後期の目標は，文の意味や機能に焦点を当てた機能文法の基本を学び，以下の点を中心に，英語と日本語の構文や現象の背後にある適格性について考察する。</p> <p>①後置文 ②省略 ③結果構文 ④受身文 ⑤Tough構文 ⑥中間態と可能態 ⑦視点 ⑧再帰代名詞 ⑨数量詞の作用域</p>
レポート課題 1	<p>基本教材2（『機能的統語論』）の第1章から第4章まで，各章ごとに内容をまとめ，練習問題を解答すること。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材2（『機能的統語論』）の第5章から第9章まで，各章ごとに内容をまとめ，練習問題を解答すること。</p>